

令 和 7 年

# 火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

## 目 次

### [火災概要]

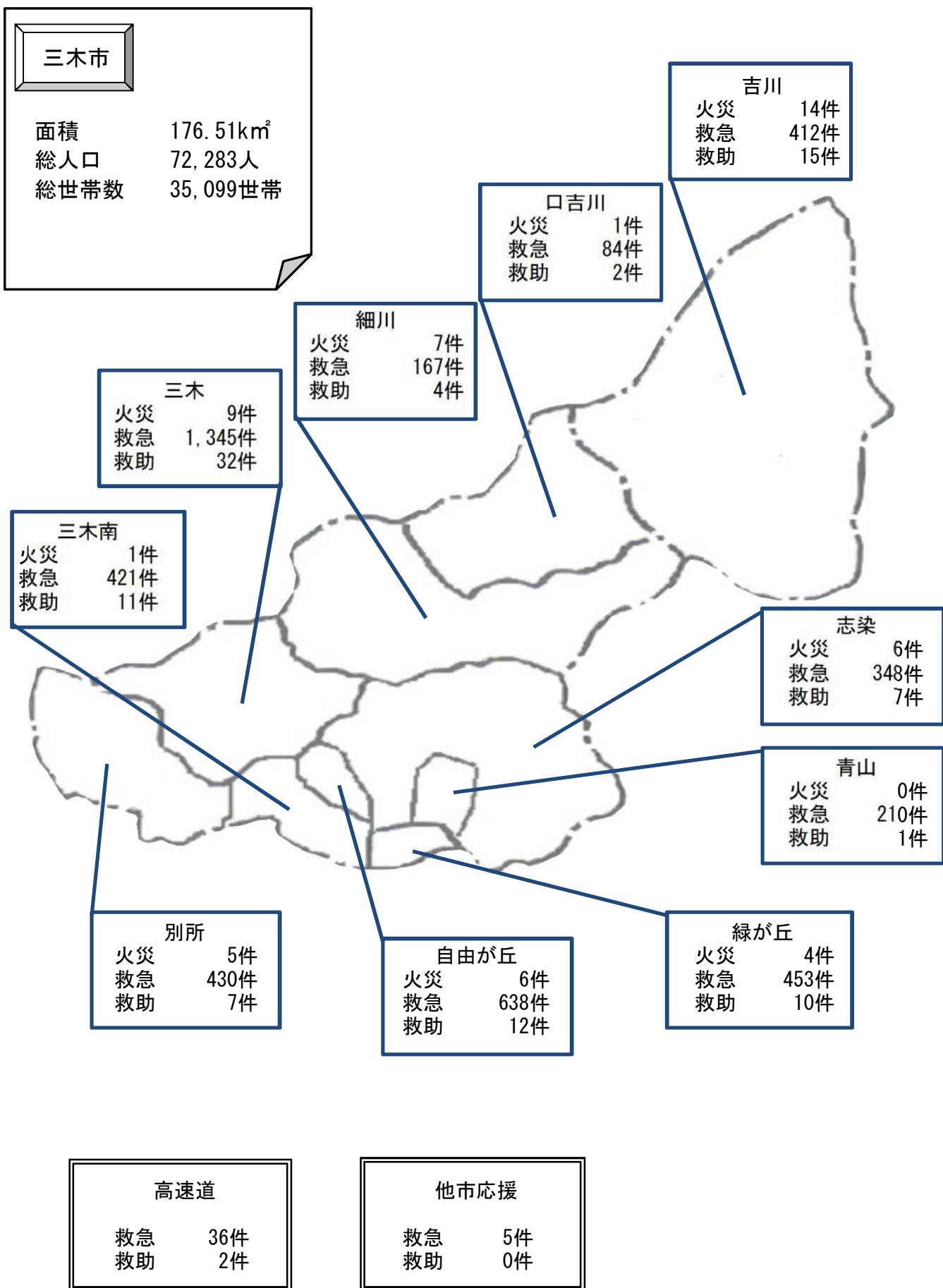
地区別発生件数	… 1	火災による損害額(5年間)	… 8
令和7年中の火災概要	… 2～3	管内出火件数・	
火災概要(対前年比)	… 4	損害額の推移(5年間)	… 8
地区別出火件数	… 5	出火原因別件数	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
四季別出火件数	… 6	火災による死者数(10年間)	… 10
月別出火件数(5年間)	… 6	主な火災発生状況	… 10
曜日別出火件数	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
時間別出火件数	… 7	消防部隊出動状況(対前年比)	… 11
署別出火件数	… 7		

### [救急・救助概要]

令和7年中の救急・救助概要	… 12～14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
病院収容所要時間別搬送人員	… 19		

# 地区別発生件数

〔 人口・世帯数については  
令和7年12月末現在 〕



# 令和7年中の火災概要

## 1. 概況

令和7年中の出火件数は53件で、損害額は23,638千円、建物焼損床面積821m<sup>2</sup>、林野焼損面積42a、り災世帯9世帯、り災人員26人となっています。

## 2. 出火件数

### (1) 出火件数

出火件数は53件（前年比30件増）で、6.9日に1件の割合で発生しています。

出火率（人口1万人当りの出火件数）は7.33ポイント（前年比4.18ポイント増）となっています。

### (2) 火災種別毎の出火件数

その他火災24件（45%、前年比17件増）が最も多く、次いで建物火災17件（32%、前年比4件増）、車両火災7件（13%、前年比5件増）、林野火災5件（10%、前年4件増）となっています。

建物火災の内訳は、住宅9件、工場2件、その他建物6件となっています。

### (3) 死者・負傷者

令和7年中の火災による死者は2名（前年比2名増）、負傷者は10人（前年比7人増）となっています。

### (4) 焼損棟数

焼損棟数は24棟（前年比5棟増）で、全焼棟数は6棟（前年比1棟減）となっています。

### (5) り災世帯・り災人員

り災世帯は9世帯（前年比2世帯減）で、り災人員は26人（前年比増減なし）となっています。

### (6) 焼損面積

建物焼損床面積は821m<sup>2</sup>（前年比252m<sup>2</sup>減）で、林野焼損面積は42a（前年比33a増）となっています。

#### (7) 出火原因

出火原因は、「たき火」が19件、「たばこ」が5件、「電気機器」「放火」が各3件、「排気管」「マッチ・ライター」が各2件、「こんろ」「ストーブ」「電気装置」「電灯・電話等の配線」「配線器具」「火あそび」が各1件、「その他」が10件、「不明（調査中を含む）」が3件となっています。

#### (8) 損害額

火災による損害額は23,638千円（前年比64,644千円減）となっています。

※損害額については、調査中2件を除く。

### 3. まとめ

令和7年中の出火件数は53件、損害額は23,638千円、火災による死者は2人、負傷者は10人です。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を持ち、少しでも知識を身につけることが大切です。

近年、たき火からの火災が多く発生しています。たき火が火災に発展する原因是、風にあおられて拡大するものや、その場を離れたことが主なものです。たき火など火を扱う行為を安易に考えず慎重に実施することが大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、継続して住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発していきます。

## 火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ30件増加。火災種別ではその他火災が17件、車両火災が5件、建物火災と林野火災が4件増加しています。

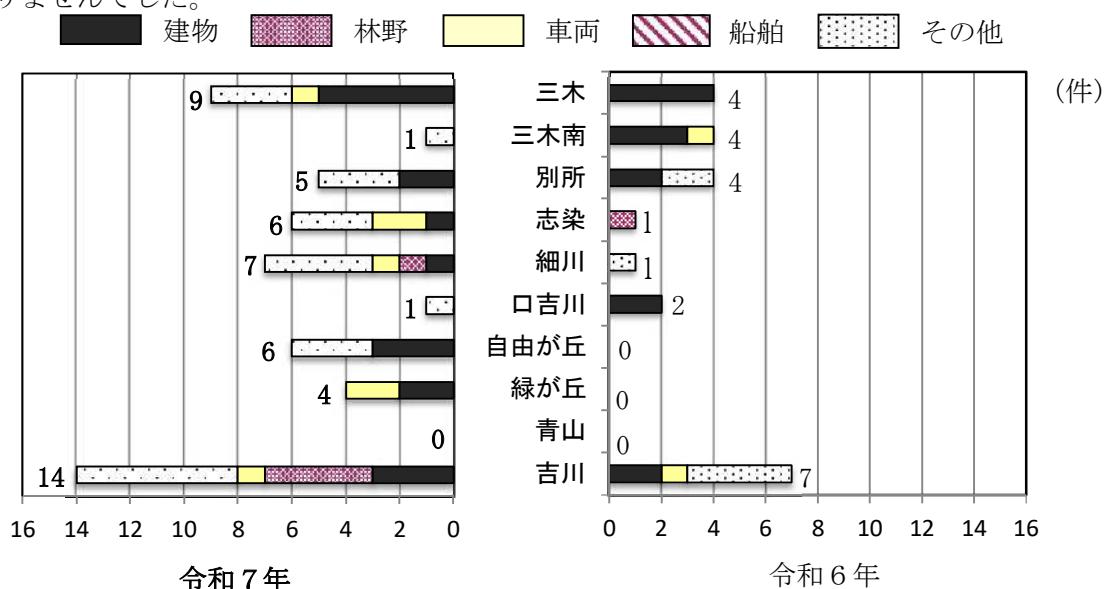
区分		単位	令和7年	令和6年	増減
出火件数	件	53	23	30	
	建物	〃	17	13	4
	内 内 訳	住宅 工場 その他	9 2 6	7 3 3	2 △1 3
	林野	〃	5	1	4
	車両	〃	7	2	5
	船舶	〃	0	0	0
	その他	〃	24	7	17
	損害額	千円	23,638	88,282	△ 64,644
	建物	〃	16,133	87,811	△ 71,678
	内 内 訳	建物 収容物	13,011 3,122	47,563 40,248	△ 34,552 △ 37,126
損害額	林野	〃	0	0	0
	車両	〃	1,268	463	805
	船舶	〃	0	0	0
	その他	〃	6,228	8	6,220
	爆発	〃	9	0	9
	建物焼損棟数	棟	24	19	5
	全焼	〃	6	7	△ 1
	半焼	〃	1	0	1
	部分焼	〃	14	5	9
	ぼや	〃	3	7	△ 4
爆損	損害棟数	棟	0	0	0
	車両等数	台	0	0	0
焼損	建物床面積	m <sup>2</sup>	821	1,073	△ 252
	建物表面積	m <sup>2</sup>	75	131	△ 56
	林野	a	42	9	33
	車両	台	9	2	7
	船舶	艇	0	0	0
負傷者		人	10	3	7
死者		〃	2	0	2
り災世帯	り災世帯	世帯	9	11	△ 2
	全損	〃	3	2	1
	半損	〃	0	0	0
	小損	〃	6	9	△ 3
り災人員		人	26	26	0
建物1件当たりの損害額		千円	949	6,755	△ 5,806
〃 焼損床面積		m <sup>2</sup>	48	83	△ 35

※損害額については、調査中の2件を除く。

△印は減少

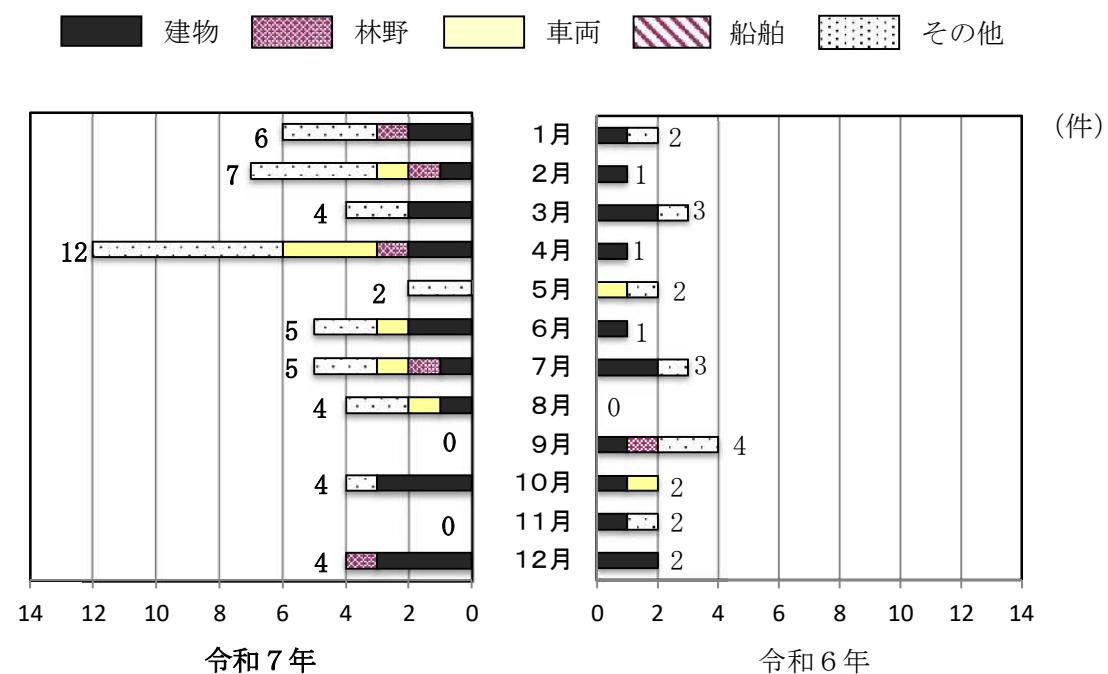
## 地区別出火件数

前年と比較すると、三木地区、別所地区、志染地区、細川地区、自由が丘、緑が丘、吉川地区が増加、三木南地区、口吉川地区が減少、青山地区は増減がありませんでした。



## 月別火災種別出火件数

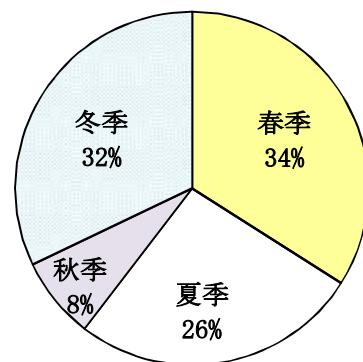
前年と比較すると、1月・2月・3月・4月・6月・7月・8月・10月・12月が増加し、9月・11月が減少、5月は増減がありませんでした。



## 四季別出火件数

出火件数比率

春季(3・4・5月)	18 件
夏季(6・7・8月)	14 件
秋季(9・10・11月)	4 件
冬季(12・1・2月)	17 件
計	53 件

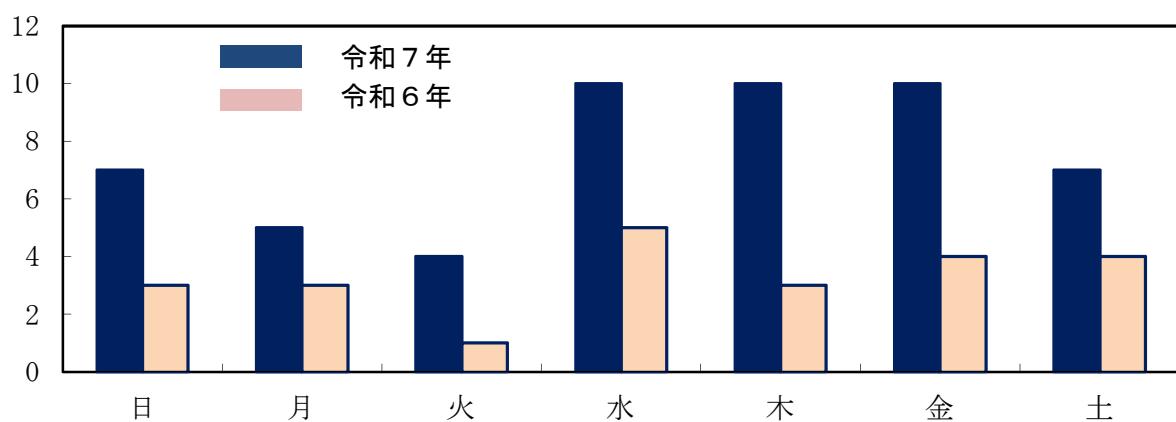


## 月別出火件数（5年間）

月 年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和7年	6	7	4	12	2	5	5	4	0	4	0	4	53
令和6年	2	1	3	1	2	1	3	0	4	2	2	2	23
令和5年	4	4	8	5	3	1	1	3	1	1	5	2	38
令和4年	8	6	2	10	4	5	0	6	0	1	1	4	47
令和3年	4	3	4	1	3	0	1	0	3	5	1	1	26

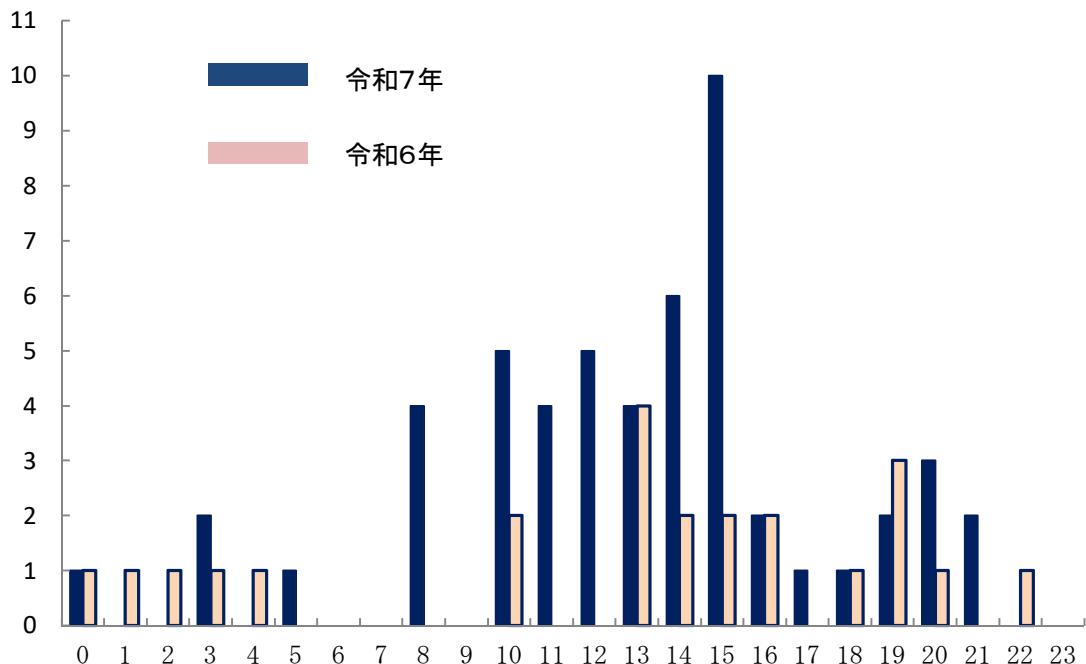
## 曜日別出火件数

水曜日・木曜日・金曜日（10件）に多く発生しています。



曜日 年	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和7年	7	5	4	10	10	10	7	53
令和6年	3	3	1	5	3	4	4	23

## 時間別出火件数



年	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計	
年	令和7年	1	0	0	2	0	1	0	0	4	0	5	4	5	4	6	10	2	1	1	2	3	2	0	0	53
年	令和6年	1	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	4	2	2	2	0	1	3	1	0	1	0	23	

## 署別出火件数

本署は火災件数が15件、広野分署は7件、吉川分署は8件増加となっています。

年 署別	種別		建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
	令和 7年	令和 6年												
本 署	8	6	1	1	4	1	0	0	13	3	26	11		
広野分署	5	3	0	0	2	0	0	0	3	0	10	3		
吉川分署	4	4	4	0	1	1	0	0	8	4	17	9		
合 計	17	13	5	1	7	2	0	0	24	7	53	23		

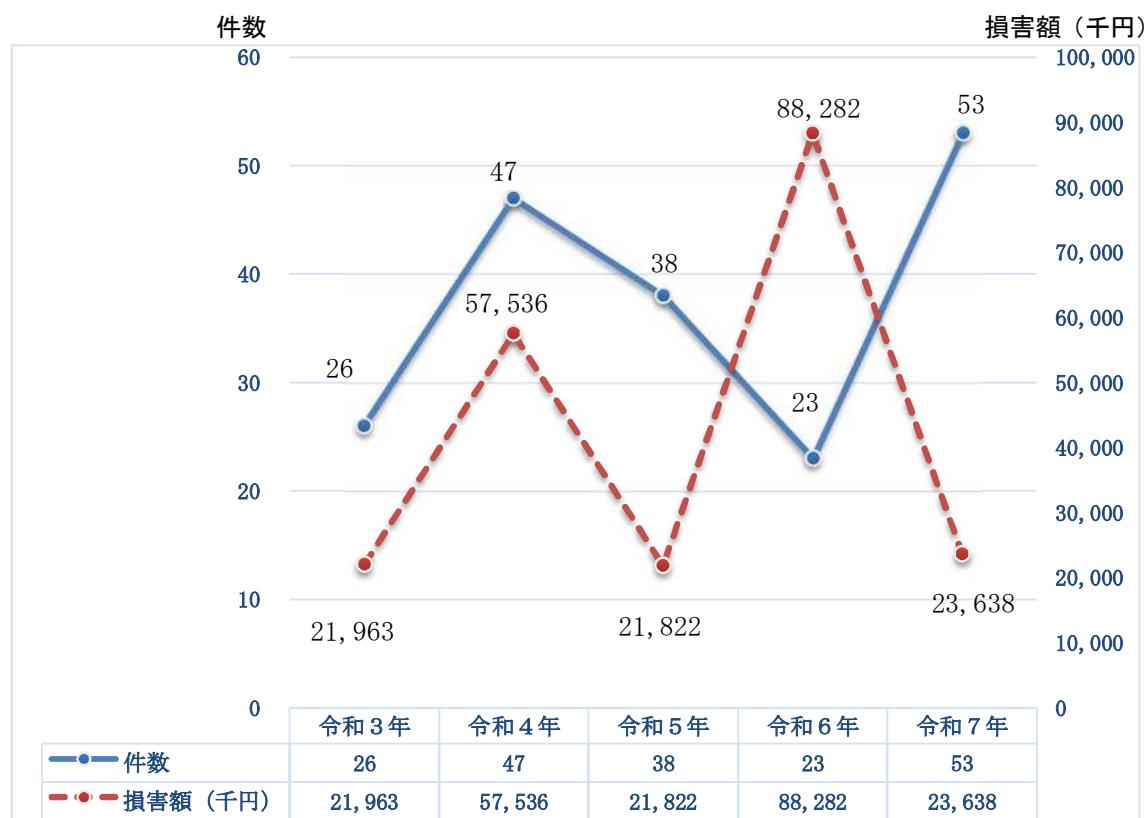
## 火災による損害額（5年間）

(損害額単位：千円)

年 項 目	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年
火災損害額	23,638	88,282	21,822	57,536	21,963
内訳	建物	16,133	87,811	1,106	44,603
	林野	0	0	0	0
	車両	1,268	463	12,968	10,873
	船舶	0	0	0	75
	その他	6,228	8	7,748	1,985
	爆発	9	0	0	0
1件当たり損害額	446	3,838	574	1,224	845
出火件数	53	23	38	47	26
内訳	建物	17	13	13	23
	林野	5	1	1	8
	車両	7	2	7	6
	船舶	0	0	0	0
	その他	24	7	17	10

※損害額については、調査中2件を除く。

## 管内出火件数・損害額の推移（5年間）



## 出火原因別件数

出火原因是「たき火」の19件が多く、全体の約36%を占めています。

出火原因	令和7年	令和6年
たばこ	5	
こんろ	1	
風呂かまど		
炉		
焼却炉		1
ストーブ	1	2
こたつ		
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管	2	
電気機器	3	1
電気装置	1	
電灯・電話等の配線	1	1
内燃機関		
配線器具	1	
火あそび	1	
マッチ・ライター	2	
たき火 ※1	19	6
溶接機・溶断機		2
衝突の火花		1
灯火		
取灰		
火入れ		
放火	3	
放火の疑い		
その他 ※2	10	4
不明(調査中含む)	3	5
合計	53	23

※1

たき火欄 内訳	令和7年	令和6年
たき火	9	4
虫焼火	10	2
合計	19	6

※2

その他欄 内訳	令和7年	令和6年
その他の裸火(器に入っていないもの)	0	0
石油バーナー	1	0
火のついたゴミ	2	0
焼入金属	1	0
火工品(煙火を除く)	2	0
再燃により出火原因となりやすいもの	1	0
ブレーキライニング	1	0
ガスフライヤー	0	0
金属粉	0	0
液化石油ガスを用いる移動可能な道具	1	0
プロペラシャフト	0	1
赤熱した切粉	0	1
その他の静電スパーク	1	1
線香	0	1
合計	10	4

## 初期消火の状況

令和7年は53件の火災が発生し、そのうち36件(68%)で何らかの初期消火を行っています。

年 項目	令和7年		令和6年	
	実施	有効	実施	有効
消防器以外の消防用設備				
水バケツ	4		2	1
消火器	12	6	6	3
水道・浴槽・汲み置きの水	10	7	7	3
寝具・衣類等をかけた				
もみ消した	2			
その他	8	6	2	
合計	36	19	17	7
初期消火なし		17		6

## 火災による死者数(10年間)

地区	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年
三木				3		1		1	1	1
三木南										
別所									1	
志染										
細川					1	1			1	
口吉川										
緑が丘	1									
自由が丘				1						
青山										
吉川	1				1					
合計	2	0	0	4	2	2	0	1	3	1
兵庫県	—	39	49	65	56	53	53	72	57	54
全国	—	1,451	1,503	1,452	1,417	1,321	1,486	1,422	1,456	1,452

※令和7年の全国・兵庫県の統計について、現時点では発表されていません。

## 主な火災発生状況

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
2/22	建物	21:54	23:39	緑が丘町東1丁目	一般住宅の一室が焼損し、死者1名発生
3/20	その他	21:13	19:00	吉川町金会	畠焼きが延焼拡大し、死者1名発生
8/19	建物	5:38	7:45	大塚1丁目	一般住宅1棟全焼
12/10	建物	20:34	翌7:51	志染町吉田	一般住宅1棟全焼

## 高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は5件となっています。

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
4/18	その他	21:34	22:06	山陽自動車道下り16.3KP	山陽自動車道下り16.3KP南東側法面40m <sup>2</sup> が焼損した。
4/26	その他	11:09	11:28	山陽自動車道上り19.0KP	山陽自動車道上り19.0KP中央分離帯の枯れ木及び枯草1m <sup>2</sup> 、ガードレール支柱一部が焼損した。
7/1	その他	15:18	15:43	山陽自動車道西神線下り2.3KP	山陽自動車道西神線下り2.3KP中央分離帯の植栽部の枯草40m <sup>2</sup> が焼損した。
7/17	車両	15:45	15:57	山陽自動車道西神線上り3.0KP	14tトラックのマフラー・カバーが焼損した。
8/27	車両	8:27	9:04	山陽自動車道上り三木SA	13tトラックの左側2軸目タイヤハウス及び直上の側板一部が焼損した。

## 消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より30件増加の305件となっています。

署別	本署		広野分署		吉川分署		合計		
年	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年	増減
警戒	132	114	60	58	106	100	298	272	26
応援	2	0	2	0	1	0	5	0	5
風水害	1	1	1	0	0	2	2	3	△1
合計	135	115	63	58	107	102	305	275	30

△印は減少

※「警戒」　偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」　近隣応援(境界、管轄高速道への出動)・兵庫県広域応援・緊急消防援助隊

# 令和7年中の救急・救助概要

## 1. 概況

令和7年中の救急出場件数は4, 549件（前年比5件、0.1%増）で、搬送人員は4, 177人（前年比44人、1.1%増）と、いずれも昨年より増加し過去最高件高件数となりました。

1日の平均出場件数は12.5件（前年比0.1件増）で、市民約16人に1人が救急車を利用したことになります。

令和7年中の救助出動件数は103件（前年比17件増）となっています。

## 2. 救急出場件数

### (1) 救急出場件数

出場件数は4, 549件で、昨年より5件増加となりました。

### (2) 発生地区別出場件数

三木地区の1, 345件（29.6%）が最も多く、続いて自由が丘地区638件（14.0%）、緑が丘地区453件（10.0%）、別所地区430件（9.5%）の順となっています。

### (3) 事故種別出場件数

事故種別では急病2, 890件（63.5%）が最も多く、続いて一般負傷774件（17.0%）、転院搬送369件（8.1%）、交通事故296件（6.5%）の順となっています。

### (4) 月別・曜日別・時間別状況

月別では1月の480件が最も多く、続いて12月の416件、7月の410件の順となっています。最も少ないのは9月の324件です。

曜日別では日曜日の685件が最も多く、続いて木曜日の664件、月曜日の657件です。最も少ないのは火曜日の615件です。

時間別では10時台の363件が最も多く、続いて11時台の312件、9時台の290件です。最も少ないのは1時台の59件です。

### (5) 現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は8.8分（前年8.6分）、5分以上10分未満のものが2, 836件（62.3%）と最も多く、続いて10分以上20分未満が1, 345件（29.6%）となっています。

### (6) 病院収容所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は44.3分（前年44.5分）、30分以上60分未満のものが2, 923件（70.0%）と最も多く、続いて60分以上120分未満が625件（15.0%）となっています。

## 3. 救急搬送人員

### (1) 傷病程度別搬送人員

軽症2, 254人（54.0%）、中等症1, 769人（42.4%）、重症95人（2.3%）、死亡59人（1.4%）の順となっています。

#### (2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の2, 629人(62.9%)が最も多く、続いて一般負傷716人(17.1%)の順となっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2, 894人(69.3%)を占めています。

#### (3) 性別科目別搬送人員

男性2, 237人(53.6%)、女性1, 940人(46.4%)で、297人男性を多く搬送しています。

内科2, 247人(53.8%)が最も多く、続いて脳神経外科733人(17.5%)、整形外科706人(16.9%)の順となっています。

### 4. 応急処置件数

搬送人員4, 177人に対して、応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ18, 169件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は166件(前年比16件減)となっています。

### 5. 救助件数

#### (1) 救助出動状況

出動作数は103件(前年比17件増)で、救助人員42人(前年比4人増)となっています。事故種別では、建物等による事故が47件(45.6%)と最も多く、続いて交通事故28件(27.2%)となっています。

#### (2) 地区別救助出動作数

三木地区が32件と最も多く、続いて吉川地区15件、自由が丘地区が12件となっています。

#### (3) 発生場所別救助出動作数

住居での事故等が51件(49.5%)で、道路での事故が24件(23.3%)となっています。

### 6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

救急業務に携わる職員に対する専門的知識の取得及び技術を向上させるため、指導救命士の養成を行い、救急救命士の教育体制の構築を行っています。また、医師による指導、助言、後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実を図っています。

## 7. まとめ

救急出場件数は4,549件で、前年の出場件数より5件増加して過去最高となりました。

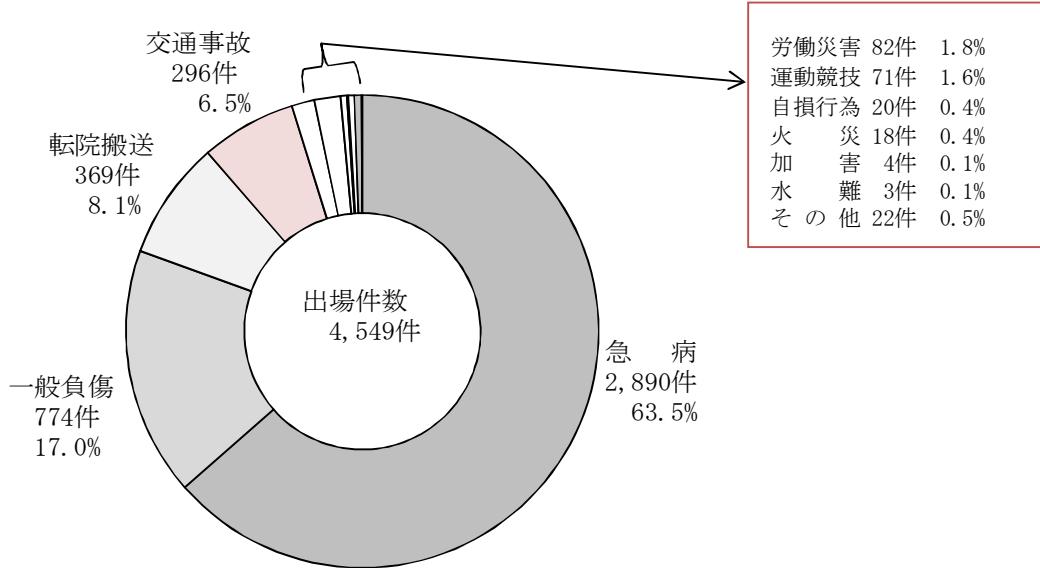
全搬送人員に占める高齢者の比率は69.3%（前年68.7%）となっていま

す。  
救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（AED）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、救急法講習会、普通救命講習、上級救命講習を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めてまいります。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数431件のうち217件と全体の50.3%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する安否確認による出動となっています。

## 救急出場件数

救急出場件数 4, 549 件のうち急病が 60 %以上を占め、続いて一般負傷の順となっています



## 発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区	年	令和7年	令和6年	令和5年
出場件数		4,549	4,544	4,420
三木		1,345	1,308	1,286
三木南		421	440	401
別所		430	396	397
志染		348	351	302
細川		167	149	160
口吉川		84	103	100
緑が丘		453	488	459
自由が丘		638	638	608
青山		210	178	225
吉川		412	451	436
高速道		36	37	39
その他		5	5	7

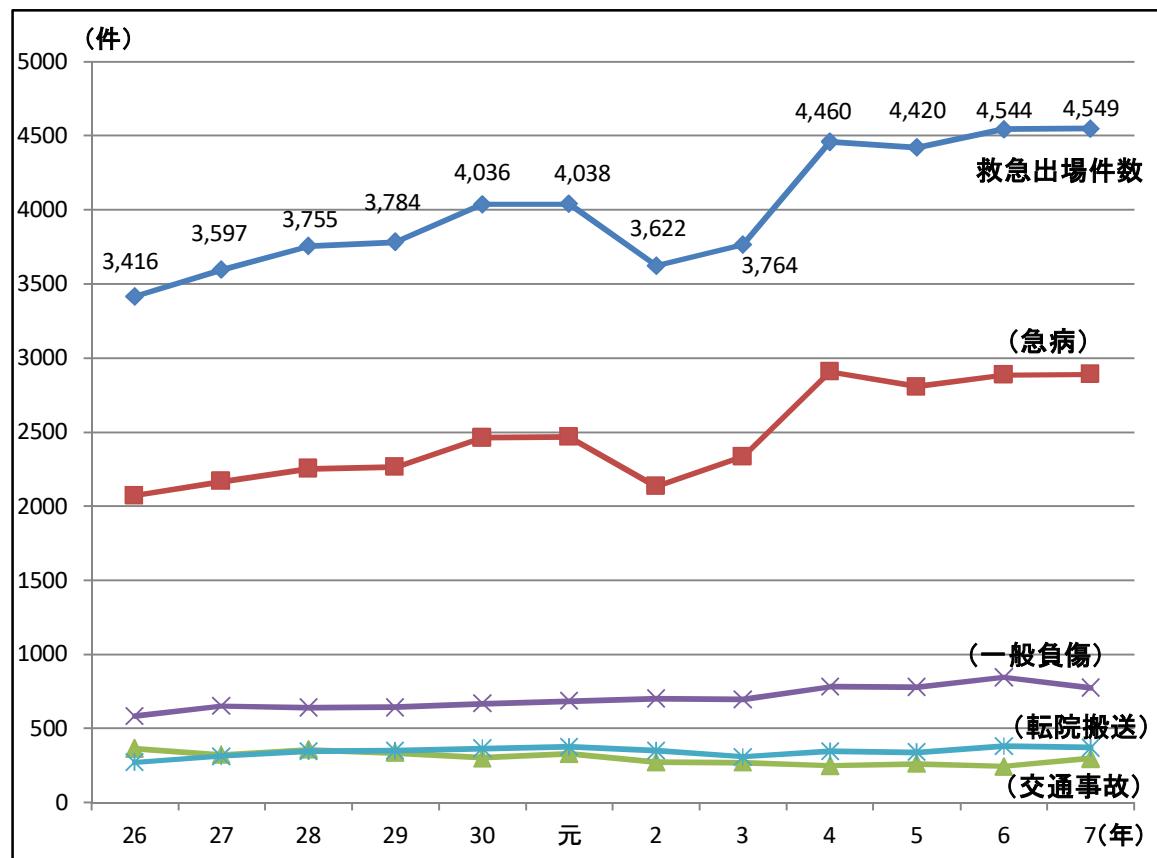
## 署別救急出場件数

出場割合は、本署 54.8%、広野分署 34.0%、吉川分署 11.2% となっています。

事故種別	本署	広野	吉川
火災	11	4	3
自然災害	0	0	0
水難	1	2	0
交通事故	191	77	28
労働災害	56	15	11
運動競技	27	30	14
一般負傷	417	270	87
加害	3	1	0
自損行為	12	5	3
急病	1,561	999	330
その他	214	144	33
合計	2,493	1,547	509

## 救急出場件数の推移

救急出場件数は4,549件で、前年比5件増加となっています。



## 事故種別救急出場件数

一般負傷が昨年より71件減少し、交通事故が51件増加しています。

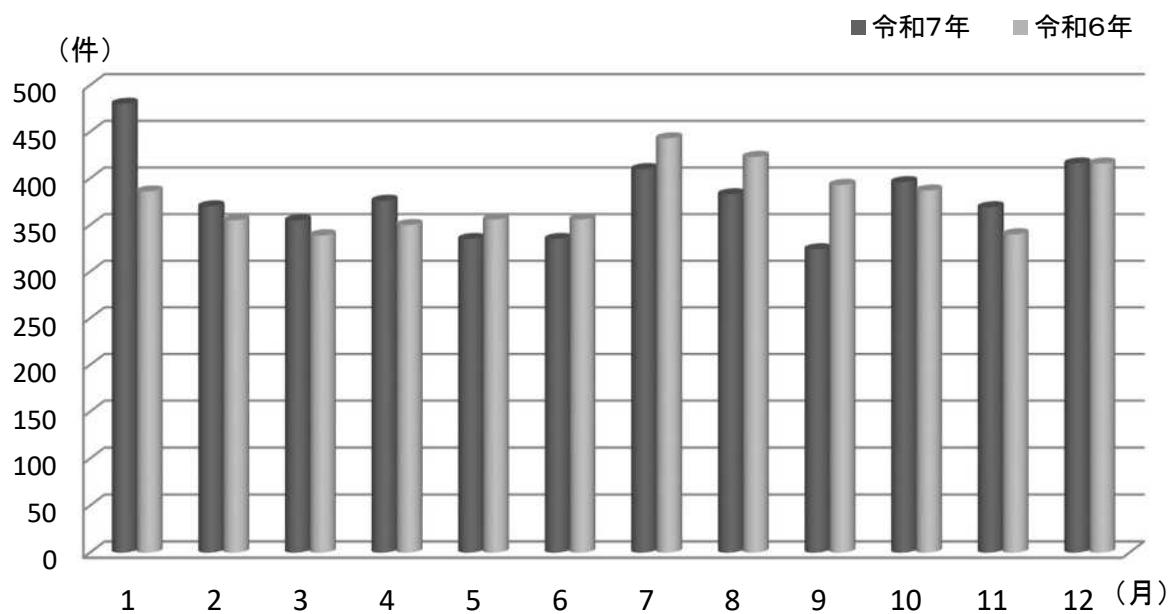
事故種別	令和7年	令和6年	増 減
火 災	18	7	11
自 然 災 害	0	0	0
水 難	3	0	3
交 通 事 故	296	245	51
労 働 災 害	82	81	1
運 動 競 技	71	52	19
一 般 負 傷	774	845	△ 71
加 害	4	23	△ 19
自 損 行 為	20	20	0
急 病	2,890	2,886	4
その 他	転院搬送	369	381
	医師搬送	0	0
	資器材搬送	0	0
	その 他	22	4
合 計		4,549	5

△印は減少

## 月別救急出場件数

1月が最も多く、続いて12月となっています。最も少いのは9月です。

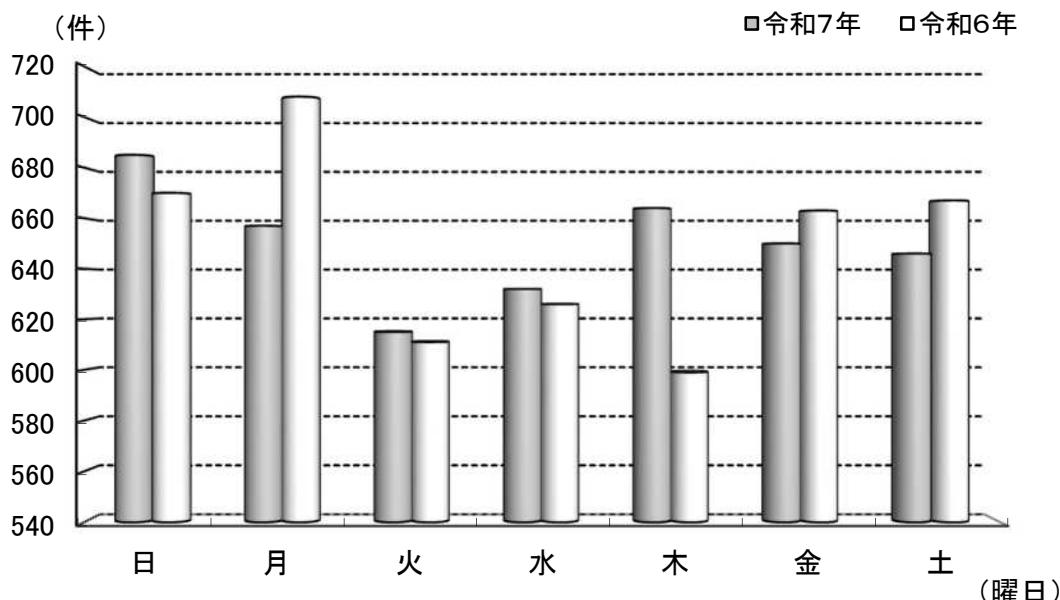
1ヶ月平均379.0件、1日平均12.5件出場しています。



年\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和7年	480	370	355	376	335	335	410	383	324	396	369	416	4,549
令和6年	386	355	339	350	356	356	443	423	393	387	340	416	4,544

## 曜日別救急出場件数

日曜日が最も多く、続いて木曜日となっています。最も少いのは火曜日です。

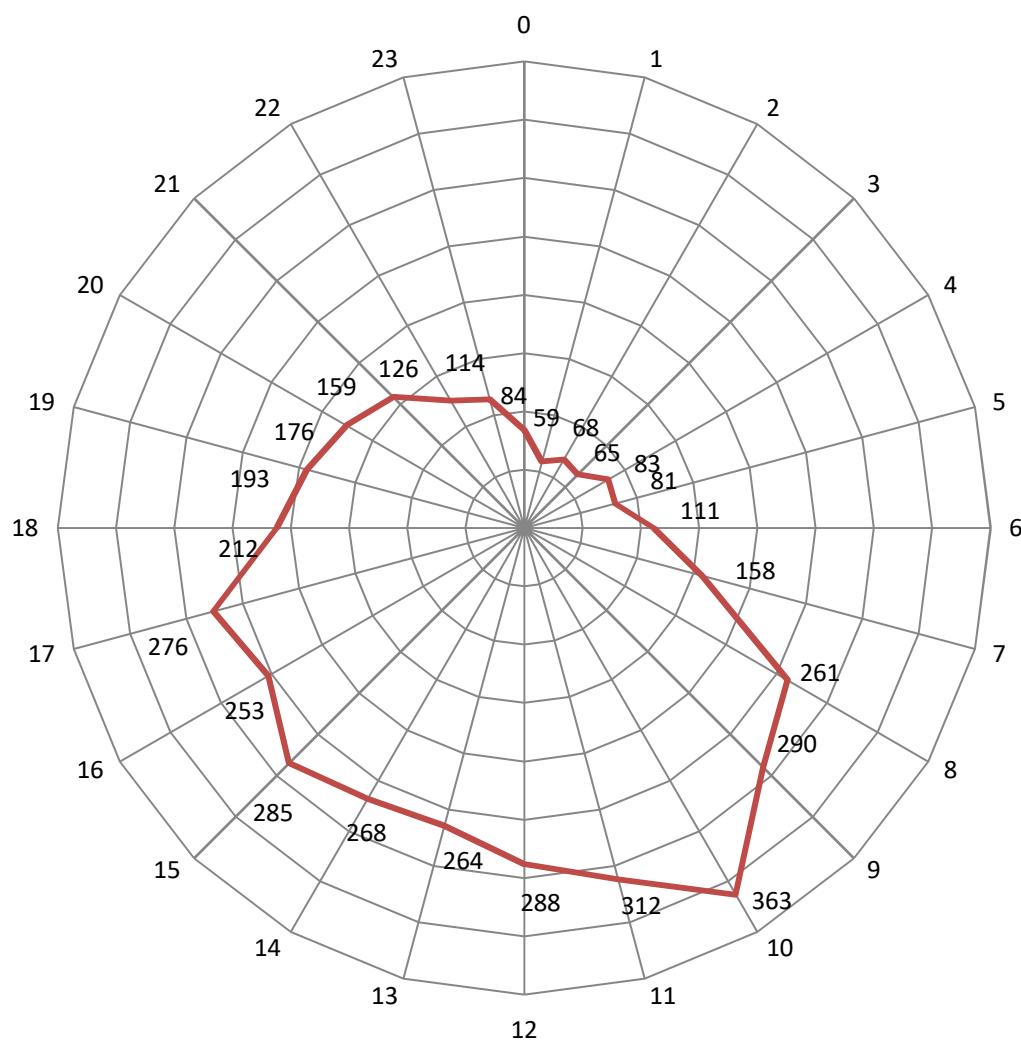


年\曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和7年	685	657	615	632	664	650	646	4,549
令和6年	670	708	611	626	599	663	667	4,544

## 時間別救急出場件数

10時台が最も多く、最も少ないの1時台です。

救急出場件数 4,549件



## 現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は8.8分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,836件で全体の62.3%を占めています。

事故種別 \ 所要時間	3分未満	3分以上5分未満	5分以上10分未満	10分以上20分未満	20分以上	計	平均時間(分)
急 病	11	112	1,865	848	54	2,890	8.8
一般負傷	6	21	495	233	19	774	8.9
交通事故	3	13	156	112	12	296	9.8
その 他	5	95	320	152	17	589	8.3
合 計	25	241	2,836	1,345	102	4,549	8.8

## 病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は44.3分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,923人で全体の70.0%を占めています。

事故種別 所要時間	10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上120分未満	120分以上	計	平均時間(分)
急 病	0	10	385	1,941	282	11	2,629	42.6
交通事故	0	1	21	168	100	1	291	54.1
一般負傷	0	2	67	463	184	0	716	49.3
その他の	0	3	127	351	59	1	541	41.0
合 計	0	16	600	2,923	625	13	4,177	44.3

## 事故種別救急搬送人員

交通事故が76件増加、一般負傷は51件減少しています。

事故種別 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
令和7年	9	0	3	291	79	69	716	2	12	2,629	367	4,177
令和6年	1	0	0	215	80	50	767	16	12	2,611	381	4,133
増 減	8	0	3	76	△ 1	19	△ 51	△ 14	0	18	△ 14	44

△印は減少

## 傷病程度別救急搬送人員

軽症2,254人(54.0%)、中等症1,769人(42.4%)、重症95人(2.3%)、死亡59人(1.4%)の順となっています。

事故種別 傷病程度	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
死 亡	1	0	1	0	0	0	0	0	2	55	0	59
重 症	0	0	0	9	3	0	3	0	1	72	7	95
中等症	4	0	1	58	27	11	226	0	5	1,080	357	1,769
軽 症	4	0	1	224	49	58	487	2	4	1,422	3	2,254
その他の	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	9	0	3	291	79	69	716	2	12	2,629	367	4,177

## 発生場所別救急出場件数

住宅での発生が2,588件で全体の56.9%を占め、そのうち急病によるものが81.8%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	合 計
急 病	2,116	532	83	106	53	2,890
交通事故	3	14	1	275	3	296
一般負傷	423	146	4	139	62	774
そ の 他	46	450	78	4	11	589
合 計	2,588	1,142	166	524	129	4,549

## 事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,894人で全体の69.3%を占めています。

事故種別 年齢別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
新生児（28日未満）	1	0	0	0	1
乳幼児（28日～6歳）	98	10	32	1	141
少 年（7歳～17歳）	59	22	17	36	134
成 人（18歳～64歳）	554	160	116	177	1,007
高齢者（65歳以上）	1,917	99	551	327	2,894
合 計	2,629	291	716	541	4,177

## 性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が2,247人で最も多く、続いて脳神経外科、整形外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	155	73	331	375	417	316	1,183	1,064	95	48	2	6
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合 計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	16		7	6	8	14	34	20	5	2	2,237	1,940

## 高速道路における救急活動状況

事故種別 高速道別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
中 国 道	出動作数	4	1		1	6
	搬送人員	4	1		1	6
	不搬送件数					0
舞 鶴 道	出動作数	1				1
	搬送人員	1				1
	不搬送件数					0
山 陽 道	出動作数	15	9	4	1	29
	搬送人員	13	9	3	1	26
	不搬送件数	2	1	1		4
合 計	出動作数	20	10	4	2	36
	搬送人員	18	10	3	2	33
	不搬送件数	2	1	1	0	4

## 応急処置件数

事故種別 応急処置		急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
応急処置対象人員(人)		2,629	291	716	541	4,177
止 血		16	20	72	21	129
被 覆		7	50	184	37	278
固 定		13	119	76	32	240
保 温		57	11	9	11	88
酸 素 吸 入		627	20	27	116	790
人 工 呼 吸					1	1
胸 骨 圧 迫						0
心 肺 蘇 生		86	1	1	5	93
在 宅 療 法 繼 続		42		3		45
血 壓 測 定		2,529	288	706	535	4,058
聴 診 器		733	102	71	88	994
血 中 酸 素 鮑 和 度 測 定		2,554	290	713	537	4,094
心 電 図 測 定		2,096	124	291	352	2,863
気 道 確 保		154	2	5	10	171
経鼻エアウェイ		1				1
喉頭鏡・鉗子		1		1		2
* ランゲアルマスク等		50			1	51
* 気 管 挿 管		5		1		6
以 外		97	2	3	9	111
除 細 動		13				13
* 静 脈 路 確 保		61	3	2	3	69
* うち心肺機能停止前		6	2	1		9
* うち心肺機能停止後		55	1	1	3	60
* 薬 剤 投 与		31		1	1	33
血 糖 測 定		16				16
* ブドウ糖 投 与		2				2
そ の 他		2,627	292	723	550	4,192
合 計		11,664	1,322	2,884	2,299	18,169

\*印は、救急救命士の特定行為

## 救助出動状況

出動件数103件で前年比17件増加し、救助人員についても42名で前年比4名増加しています。

年別	区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
	令和7年	103	64	42	304	858
	令和6年	86	58	38	230	659

## 地区別救助出動件数

三木地区が32件と最も多く、次に吉川地区の15件となっています。最も少いのは青山地区の1件です。

地区	種別	火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
三木		3	6	2		16	5	32
三木南				3		8		11
別所		2	1	1		3		7
志染		1	4			2		7
細川		1	2				1	4
口吉川			1				1	2
緑が丘		2	1			7		10
自由が丘		2	2			8		12
青山						1		1
吉川		3	6		1	2	3	15
管外								0
その他			2					2
合計	出動件数	14	28	3	1	47	10	103
	活動件数	14	12	3	0	28	7	64
	救助人員	3	16	3	0	13	7	42

## 発生場所別救助出動件数

住居での事故が51件で全体の49.5%を占め、次に道路での事故が24件となっています。

場所	種別	火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
屋内	住居	5				46		51
	その他	6					1	7
屋外	高速道		2					2
	道路		24					24
	池川等		2	3			2	7
	その他	3			1	1	6	11
地下								0
その他							1	1
合計		14	28	3	1	47	10	103